

上原遺跡



上原遺跡から出土した人面土製品。仮面のような形状で、一目で人の頭部と分かる形状をしている

かぶれる形状としては全国初

人面土製品が出土

弥生時代前期後半のもので祭祀に用いられた可能性がある。

全国でも類がない人面土製品が4月8日、上原遺跡(上原)の出土品のなかから発見された。

土製品は、人の頭部をそのままに整形した仮面のような形状をしたもの。下半分はなく、大きさは人の頭部とほぼ同じで、高さ11.1cm、幅17.6cm。眉毛や鼻の膨らみの分かる鼻筋などが見て取れ、頭頂部から後頭部にかけては、魚のひれのような突起が着いている。両目とも穴があげられていることや、眉毛と目の間には入れ墨の跡も確認された。

目頭の位置に鼻の穴があり形象化されている部分もあるが、多くは人の顔を写実的に表現。眉毛と鼻は張り付けられており、整形後、焼いて作られている。

上原遺跡は、弥生時代から古墳時代の集落遺跡。溝跡から出土した人面土製品は、弥生時代の前期後半のものだと考えられ、祭祀で用いられた可能性が高く、かぶるかかぶせるかして使われたのではと推察されている。

発掘を担当した文化課では、「極めて

まれなもの。弥生人の姿を写した可能性もあり、当時の風俗を知るうえでたいへん貴重な資料」と話す。人面土器に詳しい駒沢大学の設楽博己文学部教授は、「頭のひれは、豊作をもたらす鳥の冠羽を表現している。人面土製品は儀式で装着され、鳥装する弥生人の習俗が考えられるのではないかと」と言う。

人面土製品は6月4日(木)まで、市役所玄関ロビーで一般公開中。

問い合わせ 文化課文化財係 (☎08363)



梅雨の長雨 集中豪雨 ゲリラ豪雨

◎集中豪雨に注意を

まもなく梅雨に入り、梅雨前線による長雨や大雨などにより、河川のはんらんや土砂災害が発生しやすくなります。なかでも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」は特に注意が必要です。

少しでも危険を感じたら避難してください。また、日ごろから防災意識をもつことも大切で、家庭や地域で話し合いをもち、防災ハンドブックや洪水ハザードマップで避難場所や経路、非常持出品を確認しておきましょう。

◎自主防災組織の結成を

大規模な災害に、最も素早く、組織的に活動できるのが自主防災組織です。地域の皆さんが協力して活動することで、被害を最小限に食い止める力も一層増すこととなります。市では、町内会や自治会を基本単位とした自主防災組織づくりを進めています。相談や組織づくりの手伝いもしますので、自主防災組織づくりの検討をお願いします。

問い合わせ 総務課行政係 (☎08218)



防災ハンドブックや洪水ハザードマップを基に、家庭や地域で話し合いを!

大雨

日ごろからの備えを!

自主防災組織の結成は防災の大きな力

梅雨を控え研修

市消防団



梅雨入りを控え市消防団では、洪水に備えようと消防団幹部特別研修会を4月26日、消防庁舎で開きました。

研修会には、消防団員や消防職員約170人が参加。講師は、国土交通省で河川を担当していた竹田副市長が務めました。

副市長はパワーポイントをを使い、市の洪水ハザードマップの意味や見方などを説明。「洪水時には、河川の水位に注意を払うことや気象情報をよく収集してください。普段から万一のときのことを考え、自主防災組織づくりもお願いします」と参加者に訴えました。